

2017年9月8日

各 位

昭和リース株式会社

### 業務の効率化・高度化のための RPA の導入について

当社は、人間とロボット(デジタルレイバー)の協働によるオフィスでの業務の効率化・高度化を図るため、RPA(Robotic Process Automation)の全社的な導入を開始いたします。RPAテクノロジーズ株式会社(東京都港区、代表取締役社長 大角暢之、以下「RPAテクノロジーズ」)が提供するRPAソリューション「Blue Prism」について、物件代金の支払処理など100程度の業務において導入の可能性を検討いたします。バックオフィス業務を中心に幅広くRPAの導入を検討することで、人的リソースのより付加価値の高い業務への移行、集中を目指します。

RPAはロボットにより業務自動化を行うソリューションで、英国のBlue Prism社が提供する「Blue Prism」は欧州や米国の企業を中心にすでに10億件を超えるトランザクションを実行する実績を有します。日本では、RPAテクノロジーズが2017年月6月から正式な取り扱いを開始し、当社が国内最初の導入先となります。

「Blue Prism」は、基幹システムを含め、既存の業務システムに変更を加えることなく導入し、業務プロセスの修正や改善に対応できます。デスクトップ端末1台ごとにロボットをインストールして管理する「デスクトップ型」に対して、サーバーによる集中管理を行う「エンタープライズ型」であるため、業務プロセスの修正、変更への対応やRPAによる処理状況の把握が一括、統合して管理できるので、対象となる業務が増大したり、多岐にわたっても、柔軟かつ統制がとれた運用管理が可能であることが特徴です。

当社では、RPAの本格導入に先立ち、試験的にリース物件の代金支払業務においてRPAを導入した結果、社員による個別処理よりも処理スピードが10倍以上向上いたしました。RPAの導入により、複数端末での同時処理の実現や、平準化が困難な業務の効率化、処理ミス・漏れの排除など、お客さまに対するサービス品質の向上が期待できること、人的リソースのより付加価値の高い業務への移行、集中が社員の働き方改革の推進にも寄与することから、今般、本格導入することとしたものです。当社では、リース物件代金の支払処理に加えて、振込入金におけるデータの突合作業、期中の支払い金額が変動する場合などの変則的な回収・支払スケジュール登録の対応などでの導入の可能性を検討しております。今後、AI(人工知能)の活用による業務フロー効率化の可能性なども勘案し、対象範囲の拡大を検討していきます。

以 上

#### 【本件に関するお問い合わせ】

新生銀行 グループ IR・広報部 高橋、江口、岩佐

Tel.03-6880-8303